

定年を迎えて



中尾 美知子

月日は百代の過客にして行かふ年も又旅人也と芭蕉にあります。まことにその通りのようです。学部で専攻したのが日本史だったものが、韓国の研究をやり続けるとは思ってもよかったですし、また大学院の権威性が気に入らず外の世界に出ようとしていたものが、大学しか知らない生き方をしてくるとも思いませんでした。月日は、思いもよらず過ぎてゆくのでしょうか。

学習院大学東洋文化研究所で李朝（朝鮮王朝）実録や経国大典など影印本刊行のアシスタントをしたのが始まりでした。主事の末松保和先生は、かつて京城帝大で優秀な朝鮮人学生の歴史学研究の力を引き出す役割を十分果たせなかったことに悔恨の念を抱いておられ、朝鮮史の基本史料の出版が朝鮮半島における歴史研究の一助になることを願ってこの仕事を進めておられました。末松先生から助手なので朝鮮史の勉強もしてくださいと古代骨品制をテーマとした原文論文を渡され、それを読むべくそのころ都内にほとんど無かった朝鮮語学習の場を求めて現代語学塾に通うようになりました。金嬉老公判対策委員会が母体となっていた現代語学塾で長璋吉先生、梶村秀樹先生の薫陶を受け、梶村先生との縁で雑誌『朝鮮研究』の同人活動に加わるようになって、韓国現代史と触れ合うことになりました。朝鮮なのか韓国なのか、その呼称一つを取りあげても神経質に使い分けていた時代の話です。今となっては適宜に伝えることができることに、隔世の感があります。

韓国では2回の長期留学を経験しました。1回目の1980年10月からの9ヵ月間は、前年の朴正熙大統領暗殺に続く光州市民抗争が失敗に終わり軍政に逆戻りした冬の時代でした。また零下10度を下回るソウルとしても大変寒い年であり、その寒さと暗さを梨花女子大学のインターナショナルハウスで韓国人と共有することのできた貴重な9ヵ月でもありました。反対に2回

目の1987年9月からの2年半は、長く続いた軍政支配から脱して民政移管を達成した春の時代でした。高麗大学の修士課程で、院生たちと共に解き放たれてゆくその時期を謳歌した2年半でした。

この2回の留学を中心に韓国現代史を2つのテーマから取り上げました。1つ目は、日本の植民地支配から1945年に解放された朝鮮社会が同時に分断を抱えざるを得なかった現実のなかで現代史をいかに歩み始めたかというテーマです。解放直後の朝鮮は、資本家のいない資本主義社会だったという指摘があります。植民地収奪下で民族資本の正常な成長の可能性を摘み取られ、解放と同時にそれまでの経済の80～90%を占めていたといわれる日本の資本が退いていった状況を指した言葉です。そこでまず現れたのは、日本人が撤退した工場・鉱山・会社等の施設を自分たちで接収・自主管理するという労働者当事者による自然発生的な動きでした。しかし日本に対する間接統治とは異なり朝鮮には直接統治を敷いたアメリカ軍政府が送り込む管理人や工場長との間で、衝突が高じてゆきます。この間の描写は、朝鮮労働組合全国評議会（自発的な労働運動の全国的組織体です。全評と略称）機関紙『全国労働者新聞』に活写されていました。例えば、光州市の若林製紙工場では1946年2月11日に金洪三が工場長に就任しましたが、「金は8月15日直後、前日本人工場主と密約して工場を独り占めしようとしたことが発覚して一旦工場を追い出された者であった。植民地時代には学校職員として火災の中から「教育勅語」を救い出した“美談”の持ち主でもある。工場長になった金はかつて彼と一緒に日本人工場主の下で労働者を搾取し、8月15日後工場の物資を密売して追い出された反動分子5名を再び引き入れて各部署に配置するなどしたため、労働者からの排斥運動が激化した。金の訴えで工具6名が警察に連行され、全工具は仲間の釈放と工場長排斥闘争に入った」という具合です。結

局全評は46年9月のゼネストを頂点に軍政府の弾圧を受けて後退を余儀なくされ、北緯38度線以北の政治勢力とともに統一政府を樹立しようとする試みも失敗して、分断国家樹立に向わざるを得ない成り行きを韓国現代史のスタートとして描きました。

しかし、資本家のいない資本主義社会を労働者当事者が受け皿となるという思いはその後韓国社会に引き継がれてゆきます。そこで、2つ目のテーマとして朝鮮戦争下の釜山で1951年に発生した労働争議を取り上げました。戦争は膠着状態に陥っており、韓国社会は戦後に向けてその歩みを開始していた時期でした。植民地時代に創設された大規模企業朝鮮紡織株式会社で、その所有をめぐる共同払い下げを求めた労働者と大統領李承晩によって投入された暴力的社長との間で激しく闘われ、社長が勝利します。「祖国解放によって日帝から没収した財産は、その被害に耐えてきた韓国人全員の共有財産であり、日帝企業家の抑圧の下でこれを支えてきた朝鮮紡織従業員全員にその優先的取得権がある」という従業員共通の意識は実を結ぶことなく断ち切れ、以後、韓国社会は資本主義創生期に通有の暴力的性格と国家行政権力の頂点との直接的癒着を抱えて、資本主義化の本格的一步を踏み出すこととなります。そのことを第2のスタートラインと表現しました。こうした政治と経済の権力的な抱合、すなわち官民癒着とそこから生じる腐敗を除去するために韓国社会はこの後何度も大きな犠牲を払わなければならないとなり、現在に至って続いているといえます。

さて、1998年に岩手県立大学が開学して、私は福祉経営学科システムコースで教えることになりました。2008年からはフロンティア福祉教育群として学生を受け持つようになりましたが、担当科目は一貫しており、柱は韓国社会福祉でした。折しも韓国社会は軍政支配期の先成長後分配を脱して分配へと力を注ぐ段階を迎え、ミレニアムを前後して登場した金大中、盧武鉉両政権の下でドラスティックな社会福祉政策が採られたことから、福祉は韓国現代史上に主要なテーマと認識され、2000年の国民基礎生活保障法施行や自活支援政策などの興味深い展開は、次々と関心を喚起されるものでした。なかでも、生産的福祉という就労と福祉を結びつけたビジョンのもとで実施された自活支援事業で自活共同体という言葉が用いられていることに韓国人の一貫した共同への関心をみることになり、独自性に根ざした政策を韓国が追求していることに惹

かれました。その後も公的扶助分野にとどまらず、障害者福祉における過激ともいえる当事者運動の様子や日本の差別解消法に先立って行われた差別禁止法の制定過程について、また急増する外国人居住者への福祉施策の広範な実施についてなど興味は尽きませんでした。そして幸いにもそれまで想像もしなかった韓流という日韓関係上のブームの後押しを受けて、学生の韓国への関心がこの10余年絶えることなく、フロンティア福祉実習などを通じて毎年何名かの学生とともに、韓国での実習や現場踏査などを行うことができました。確かに事件は現場で起きていますので、学生の真摯な目とともに現場を見ることができたことを何よりの宝と感じています。特にソウルの鐘路老人総合福祉館（2010年に社会福祉学部と交流協定を結んでいます）では実習や調査に惜しみない協力をいただき、現地調査に基づく卒業課題研究も何篇か結実したことを感謝しています。

韓国社会の試行錯誤は続いています。韓国のみならず老いるアジアの各国が難しい舵取りの時代に入っています。日本もアジアで孤立することなく乗り切つてゆかねばならないなかで、開学時のアジアの福祉を柱にすえたカリキュラムが維持されなかったことは残念に思います。グローバル化の中で私たちは広いキャパを持つべきです。

私も、嵐の5人が歌うように、雨の向こうへ、風の向こうへ（歌詞 多田慎也）さらに歩いて参りたいと思います。